

かあさんのせなか

被爆した母の思い、曲に乗せ

作曲家

信長 貴富 さん



ピアノも作曲も独学。両親とも音楽は素人ですが、私の音楽の根底に流れる「命へのまなざし」を育んでくれたのは、被爆者である母です。私は内気な性格で体も弱く、家で1人ですっと向かをしている子でした。父は強制的にキヤッチボールをさせましたが、母は何も強いることはなかった。

兄や姉もっていた合唱を、高学年の時、小学校で始め、音楽や楽譜への興味がめきめきとわいてきた。単なる記号がなぜ音楽になっていくのか不思議で、「こどもカラー図鑑」で楽譜の仕組みを調べ、小ころには自分で曲を書き始めました。カセットデッキ2台で1人で多重録音もしましたね。

ピアノの練習を嫌がる姉を見て「習うなんてストレスフルなことは絶対したくない」と願っていました。父の影響で「男が音楽なんて」という感覚がずっとあり、中学は帰宅部で家で作曲を続けました。都立西高の管弦楽部に入ると音楽好きな男子も多く、やっとならで空気が吸える感じがした。高3で全日本合唱コンクールの選択曲の公募に入選し、新聞に名前が出て、母も喜んでくれました。

でも一番喜んだのは、東京の世田谷区役所に勤めた時です。愚子が安定した職に就いて、ほっとしたんでしょかね。丸3年で音楽の仕事がしたくなり、辞めると伝え

のぶなが・たかこみ 1971年、兵庫県生まれ。上智大学文学部卒業。合唱曲の作曲・編曲を中心に、800以上の作品を発表。朝日作曲賞ほか数々の賞を受賞。「きみ歌えよ」は「バーチャルおおかさん」の課題曲に川上幸一撮影

た時、本当に悲しすぎて涙を流したことははっきり覚えています。

両親とも広島出身で、母は3歳で被爆しました。髪が抜け、傷もこのころだったので、いじめられたようです。兄2人もなくし、差別も受けた。そうした体験を、淡々と話してくれ、私も追体験した。

2000年代以降、同時多発テロやイラク戦争が起き、母から受け継いだ「人間みんな同じだ」という問題意識が、湧き出てくるようになってきました。木島さんの詩で「初心のつた」「起点」などを作曲。詩の情景の近くに母がいたと思うと、曲が浮かんでくる。イラク戦争の子どもたち、シリア内戦で亡くなったシャリナリストの山本美香さんの曲も書きました。ダイレクトに戦争や平和を題材にしていなくても、ベースにはいつも母の思いがある。

母がいなければ、今の私はない。一人でも多くの人が私の作品に触れ、背景や歴史を知り、人となりがあって歌うことで、母の平和への思いが伝えられたらうれしいです。(聞き手・豊坂麻子)